

「高次脳機能障害の考えかたと画像診断」〈1版1刷〉正誤表  
(2017年10月現在)

「高次脳機能障害の考えかたと画像診断」〈1版1刷〉をご購入いただきまして誠にありがとうございます。本書に以下の誤りがございましたので、ここに訂正・加筆させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

171 頁 「症例6」上から9行め

(誤) .....「道順障害」<sup>25)</sup>と呼ばれる症状もみられた。図9-9cに本例のMRI画像を示す。

(正) .....「道順障害」<sup>25)</sup>と呼ばれる症状もみられた。図9-9bに本例のMRI画像を示す。

**症例6 街並失認**

風景を見てもどこかわからない、物忘れ、道に迷うという3つの症状が進行性に増悪して入院、傍腫瘍性辺縁脳炎と診断された<sup>24)</sup>。注意力、知能、言語、左右の判断、色覚の検査には異常がなかった。物品や文字、顔の認識も正常だった。新しい出来事を覚えることの障害（前向き健忘）があり、発症前2年間に身の回りに起こった出来事が思い出せなかった（逆向性健忘）。それ以前の出来事はよく覚えていた。知らない建物の写真について正確に述べることもできた（図9-9a-(1)）。また、よく知っている建物の外観などを正確に述べることもできた。しかし、2年を超えて長年慣れ親しんでいる建物や場所の写真を見ても、16箇所中1箇所しかわからなかった（図9-9a-(2)）。加えて、一目で見渡せないところにある建物や物品の位置関係がつかめず方角がわからなくなるために道に迷う「道順障害」<sup>25)</sup>と呼ばれる症状もみられた。図9-9cに本例のMRI画像を示す。

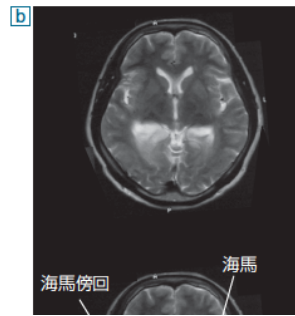


図9-9b